

## 踏み跡 <My Mountains>

駿河(天子山塊)	田貫湖から長者ケ岳・天子ケ岳	No.203
----------	----------------	--------

職場の秋の慰安旅行で山中湖へ行くことになった。朝食後現地解散なので、ついでにどこか歩いて来ようと思ひ策を巡らせてみた。「富士山のお中道」へ行ってみようか、それとも天子山塊のどこかへでも・・・。

昭和60年10月13日

頭を雲の中に突っ込んだ富士が見える朝。山の天気はどんな感じだろうか。

「富士山お中道歩き」をめざしてスバルラインを五合目まで上がってみた。

何と海拔 2500m の五合目は濃密な霧雨と暴風で、山歩きどころではない状況。お店に飛び込んで 300 円のワイン飴を買っただけでギブアップ。

再び下界に戻り、朝霧高原を抜けて田貫湖湖畔の花鳥山脈へ移動。時計を見ると 11 時 20 分、富士は裾野だけで上部は雲の中。

長者ケ岳も中腹より上はガスの中に隠れている。ま、夕方までには富士山は見えるに違いない、と甘い観測をして「登山開始」の決意。

長者ケ岳をめざして 11 時 58 分出発。カヤトと桧の林が混じった尾根伝いの思った以上にきつい登り。

長者ケ岳 (海拔 1336m) 13 時 25 分。頂上は見通しが良く、晴れていれば間違いなく雄大な富士が目の前に見えるはず。

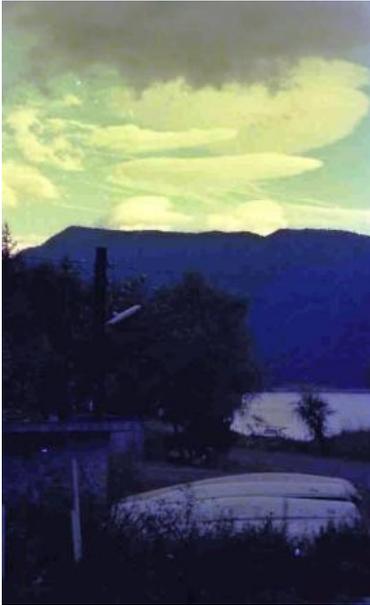
毛無山への稜線には「通行禁止」の立て札が立っている。毛無山経由で本栖湖まで歩くのも次なるプランとして良さそうだと思っていたが、ちょっと具合が悪そう。天子ケ岳へは 30 分ほどの行程のようなのでピストンしてみることにした。

天子ケ岳 (海拔 1330m) 14 時 04 分、所要時間はぴったり 30 分だった。林の中に突然頂上が現れたと言う感じで、標識が立っていなかったら通過してしまいそうな頂上。頂上まで登ってきて、その瞬間に大きな驚きも喜びもないという山も珍しい。しかし、周囲には誰もいない、静かな貸し切りの頂上は悪くない。

長者ケ岳に戻り一息ついて、14 時 33 分下山開始。カヤトの尾根から見下ろす田貫湖はなかなか味わいのある美しい眺めだった。(左上：朝の富士山麓 右上：長者ケ岳山頂 左下：天子ケ岳山頂)



## 踏み跡 <My Mountains>



田貫湖 15時20分、残念ながら富士はついに姿を見せることはなかった。花鳥山脈でキジソバを食べて(450円)、16時に出発。田貫湖→本栖湖→西湖→根場→御坂トンネルとドライブして、藤野木で「アシナガ」というキノコを土産に購入。勝沼インターから中央自動車道に入ったが20Kmの大渋滞のため、笹子トンネルを抜けただけで諦めて大月インターで降りて国道20号線へ。16時スタートは帰る時刻としてはあまり良い時刻ではないなど思ったが、もはやあとの祭り。上野原・相模湖・大垂水峠と進み、渋滞のほとぼりが冷めたと思われる調布インターから再び中央自動車道へ。家に着いたのは24時だった。帰りの所要時間が昼間の歩行時間より長いという「疲れる山歩き」だった。

晴れていて、眺望が得られれば素晴らしい富士見プロムナードが楽しめたに違いない絶好のロケーション。

しかし冷静に振り返ってみれば、「富士は笠雲から帽子へ」そして帰路に撮影した付近の山麓で見た「三段レンズ雲? 三段吊るし雲?」(左写真)は悪天候の目印だったような気がする。

以上

